

三浦綾子読書会会報

題字:三浦光世

発行:三浦綾子読書会
代表:森下辰衛
e-mail:formlad@ninus.ocn.ne.jp

巻頭言 新米運営委員の挨拶

北見神愛キリスト教会 牧師 日吉成人



私は三浦綾子さんに会いたかったのです。大学生時代に読んで綾子さんのエッセイに、新婚旅行で旭川を訪れた新婚さんが、三浦綾子さんご夫婦の自宅前を訪れてお会いされたという記事がありました。「私もそんな新婚旅行してみたい」という憧れも心の片隅に置いており

「先にツバをつけておこうと思

ました。その後、『銃口』を読んだことが高校教師になる一つの励みになりました。さらに綾子さんや「ちひろは先生」のように日本人の心に届くように福音を告げたいという思いも抱きつつ、牧師になるべく聖書神学校に入学した1999年の秋、綾子さんの召天の知らせを聞き、一人祈禱室で祈りつつ真実な証し人として歩まれた綾子さんを偲んでいました。2005年に結婚し妻は北海道・函館出身で名は洋子、新婚旅行は長崎(殉教地巡り)でしたので、もちろん綾子さんご夫妻の足跡を辿ったわけでもありません。

2009年から、大阪出身の私にとって人生の予定にはなかった北海道・北見の教会へ赴任となりました。「4月に入ってから雪には、変な言い方だが、いやがらせのような感じ」(生かされてある日々)より」という綾子さんの日記の言葉が実感として分かるようになりました。今年で言えば、「11月に入ったばかりの雪かきは、いやがらせのよう

な感じ」と思ったものです。しかし続く「だが、この感じ方に人間の側の問題がある。いや、罪がある」という綾子さんの言葉にも大きく、深くうなずくのです。

不思議な主の導きの中で森下先生の噂を聞き、2014年12月から教会で読書会を開催し、現在は図書館と喫茶店の三箇所で三浦綾子さんの書籍を読みながら楽しく感想を分かち合っています。

さて三浦綾子文学の専門家のように、深い読み方をされる運営委員の皆さんは、「きつと三浦綾子さんにお会いしたことがあ

るんだろうなあ。いいなあ」と声に出すことなく心の中で羨んでいる私です。そして、「つ、つ、ちーさん」「ロ、ロンさん」と微妙に親しく呼ばせてもらっています。そのような裏方の働きを一生懸命になされている運営委員の皆さん、さらに全国各地で開かれる三浦綾子読書会に集われる皆さんに深く感謝したいことがあります。それは、皆さんが三浦綾子読書会を始めてくださり、また参加して継続してくださっていることで、私は読書会の存在を知ることができました。そして何よりも、読書会を通してでなければお会いできない方々とかけがえのない出会いをさせてもらっています。ありがとうございます。これは言い尽くせない賜物なのです。

綾子さんにお会いしたこの新しい新米運営委員の私ですが、綾子さんの書籍を通して多くの方々が真実な出会いをなされるよう、お手伝いができれば感謝です。

～綾子さんの言葉～

やれるかも知れない、と思った時、自分でも気づかなかった力が出てくるものなのだ。(略)私たちは自分に与えられている能力を、もっと確信してもいいのではないだろうか。『明日のあなたへ』

